

海外視察研修

欧州の農業事情

平成24年11月11日から11月18日  
フランス・イタリア訪問



農業委員  
青木 秀夫



第40回欧州農業事情視察に松本市農業委員会を代表して参加させていただきました。私は現在、「松本一本葱採種組合」の組合長をしています。松本一本ねぎは私の住んでいる筑摩（つかま）が発祥の地で、採種組合も大正8年に設立されています。日本国内にはねぎの種類がたくさんありますが、海外のねぎについて、いつか機会があったら見たいと思っています。今回の視察でそれが実現しまし

た。今でもその時の感激が残っています。視察の話が出るたびにその時のお話を皆さんにしています。



ダガティーさんの直売所に並ぶポロネギ



念願のポロネギを手にして

11月13日（火）視察の2日目でした。マルセイユのバイオ農家に着いた時は夕暮れ時の寒い日でした。ピエール・ダガティーさんのハウス栽培の説明をハウスごとにお聞きしていました。そして、その時がやって来ました、これが「ポロネギ」

のハウスですと。私は思わずハウスの中に入っていました。

120mの大きなハウスに4000本のポロネギを栽培しているとの事でした。栽培方法を伺っていると私も栽培している方法とほぼ同じでした。ただ違っていたのは種をポットに3粒播いて育苗していることでした。気候が信州とよく似ていると思われまして。春に定植して収穫まで植え替えはしていない様子でした。ただこのポロネギ、日本のねぎと違うところは、葉がしょうがの葉に似ていました。葉の部分は硬そう、上部はスープに下部はスープ、サラダにして食べるとのことでした。



ハウスの中の様子

ハウスのねぎは既に3分の1が収穫されていました。



3本で2.2ユーロ（約250円）

有機肥料を使ったバイオ栽培は大変参考になりました

し、私たちもこれからはと有機肥料によるバイオ栽培を取り入れていくべきだと感じた次第です。バイオ栽培の難しさも感じました。それは、根腐れ病のねぎが落ちていた事です。一本しか見られませんでした。もしかしたらかなりの量が合ったかも知れませんが、病気に強い土作りをしているとの事でしたが、苦労している様子が感じられました。安全、安心して食べられる野菜が苦労して作られているのが良くわかりました。バイオ栽培はこちらでも普及率がまだまだこの事もうなずけました。大変な

苦労をしてバイオ100%の野菜作りをしていました。頭が下がる思いでした。視察の最後に、私も日本でのねぎ栽培をしていて5万本のねぎを真夏に全部植え替えをしていると言いましたら、びっくりしていました。この日の視察は、希望がかなった一日でした。

最後に全国農業会議所の荒井さんとツアーコンダクターの山内さんに大変お世話になりました。そして、今回参加された皆さんにお世話になりました。お礼申し上げます。



視察に参加された皆さんと